

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

退院支援看護師を中心に多職種とカンファレンスを実施した。化学療法やオピオイド導入時、レジメン変更など説明がある際には同席し、緩和ケアチームへの介入依頼も調整でき、看護観や倫理観の向上へつながった。

2) ひとりひとりが病院運営・経営に参画する

各種加算取得に向けてリンクナースを中心にスタッフへ周知したことで、意識づけとなり加算の取得につながっている。重症度、医療・看護必要度は年間平均 26.5%。後期には監査を実施し、傾向として多くみられる評価間違いなどをフィードバックをすることで、取りこぼしの防止につながった。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

指差呼称、6Rによる確認不足のインシデントが年間通して最も多く73.9%で、なかでも内服に関するインシデントが多かった。その都度、服薬管理手順を振り返り、患者と相談しながら管理方法についてカンファレンスを行った。退院後を見据えた方法を検討した関りが持てているが、インシデントの減少にはつながらなかった。

4) 専門職としての能力開発に努める

特に1年目や異動者を対象に、抗がん剤治療の看護など病棟の特殊性をふまえた勉強会を計画的に実施した。院内認定(化学療法)看護師育成としては2名参加。経年数4年目以上は全体研修に参加し指定された抗がん剤の投薬が可能となり個々のがん看護に関する知識の向上につながった。

5) 看護の先輩として学生指導に携わる

実習指導者を中心に学生のレディネス合わせた指導をスタッフで統一できるように取り組みんだ。学生から看護師へ声をかけにくい状況もみられるが、教員と実習状況・態度、学習状況など連携を図ることで学生からの受け入れ体制の評価は上昇した。

6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する

日頃の感謝の気持ちを伝え互いを尊重しあえる風土づくりとしてサンクスカードを導入した。それをきっかけに、病棟全体に報告・連絡がしやすい環境になった。

2. 病床運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収容可能病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院患者数(人)	平均在院日数(日)	病床利用率(%)	病床稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	呼吸器内科 呼吸器外科 アレルギー科	86.8	86.6	44.4	15.6	92.5	98.4

重症加算病床		有料個室		死亡者数(剖検数)(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	93.8	7	99.4	38(3)

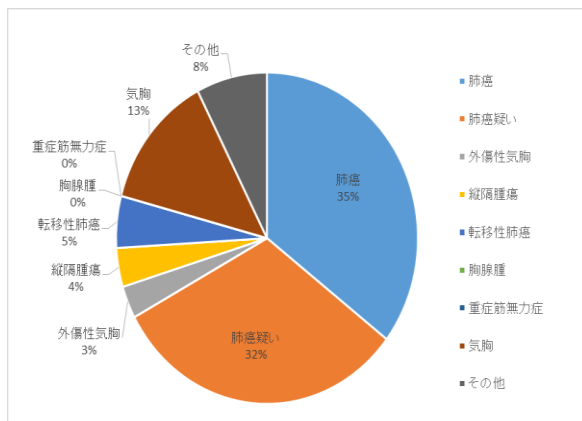


図1 呼吸器外科疾患別割合

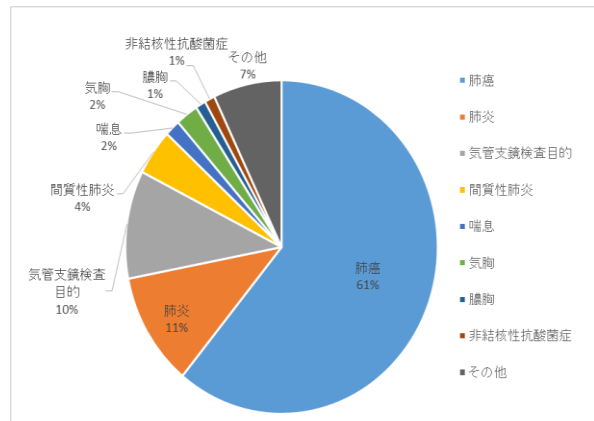


図2 呼吸器内科疾患別割合

3. 看護体制

表2 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
31	PNS [®]	4:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和元年度 一般病棟 重症度、医療看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基準を満たす患者の割合(%)	31.5	31.6	24.7	30.1	28.4	26.4	24.6	27.0	29.6	33.9	28.6	26.8

2) 主な治療の件数

表4 治療件数

ケモ件数(件/年)	337 (呼吸器科・血液内科・消化器内科など)			
手術件数(件/年)	164 (呼吸器外科・外科など)			
人工呼吸器管理(延べ日数)	人工呼吸器	BIPAP	NIPPV	ネーザルハイフロー
	60	151	207	124
麻薬使用件数(件/年)	平均4.71(内服・外用・持続皮下注・持続静注・持続硬膜外麻酔)			

3) クリニカルパス使用件数

パス使用総件数(呼吸器科内科・外科、耳鼻咽喉科、循環器科、整形外科、消化器内科、泌尿器科など)(件/年)	903
------------------------------------------------------	-----

5. 研究業績

1) 看護研究発表・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
新人看護師に対する支援の内容と時期の検討 —新人看護師が求める支援とプリセプターが行った支援を比較して—	増井愛美	第73回国立病院総合医学会	名古屋国際会議場	2019年11月8日
新人看護師に対する支援の内容と時期の検討 —新人看護師が求める支援とプリセプターが行った支援を比較して—	岩本沙織	看護研究発表会	院内	2020年2月8日